

2022年国立公園利用者数等について

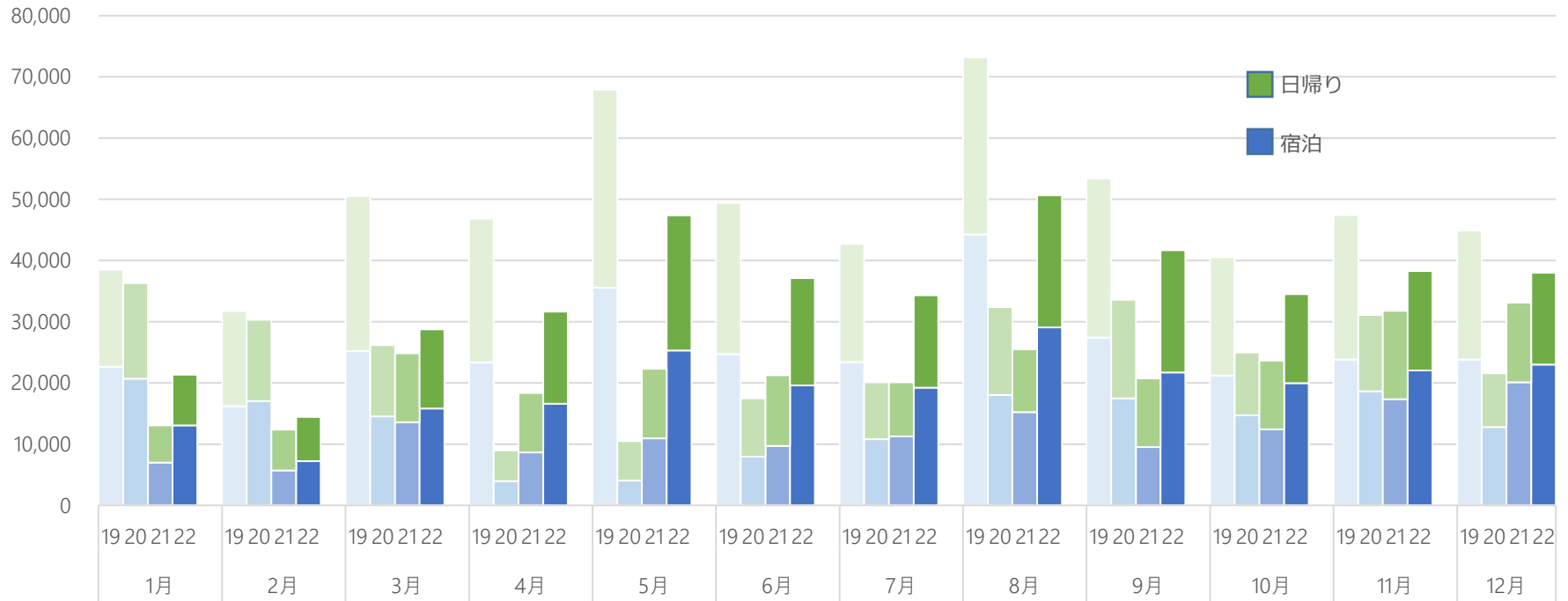
利用者数

1-1. 国内延べ旅行者数

- **2022年の国内延べ旅行者数（観光・レク、帰省・知人訪問等、出張・業務）は4億1805万人**（速報）。
- 前年からは日帰り・宿泊ともに大きく回復したものの、新型コロナウイルス感染症の影響前の**2019年の5億8710万人と比較すると年間で約7割にとどまった**（2019年比日帰り32.7%減、宿泊25.4%減）。
- 月別には夏休み期間に当たる8月に旅行者数が最も多くなり、GWのある5月にもピークが来ている。また、10月以降は2019年比で8割以上の回復を見せている。

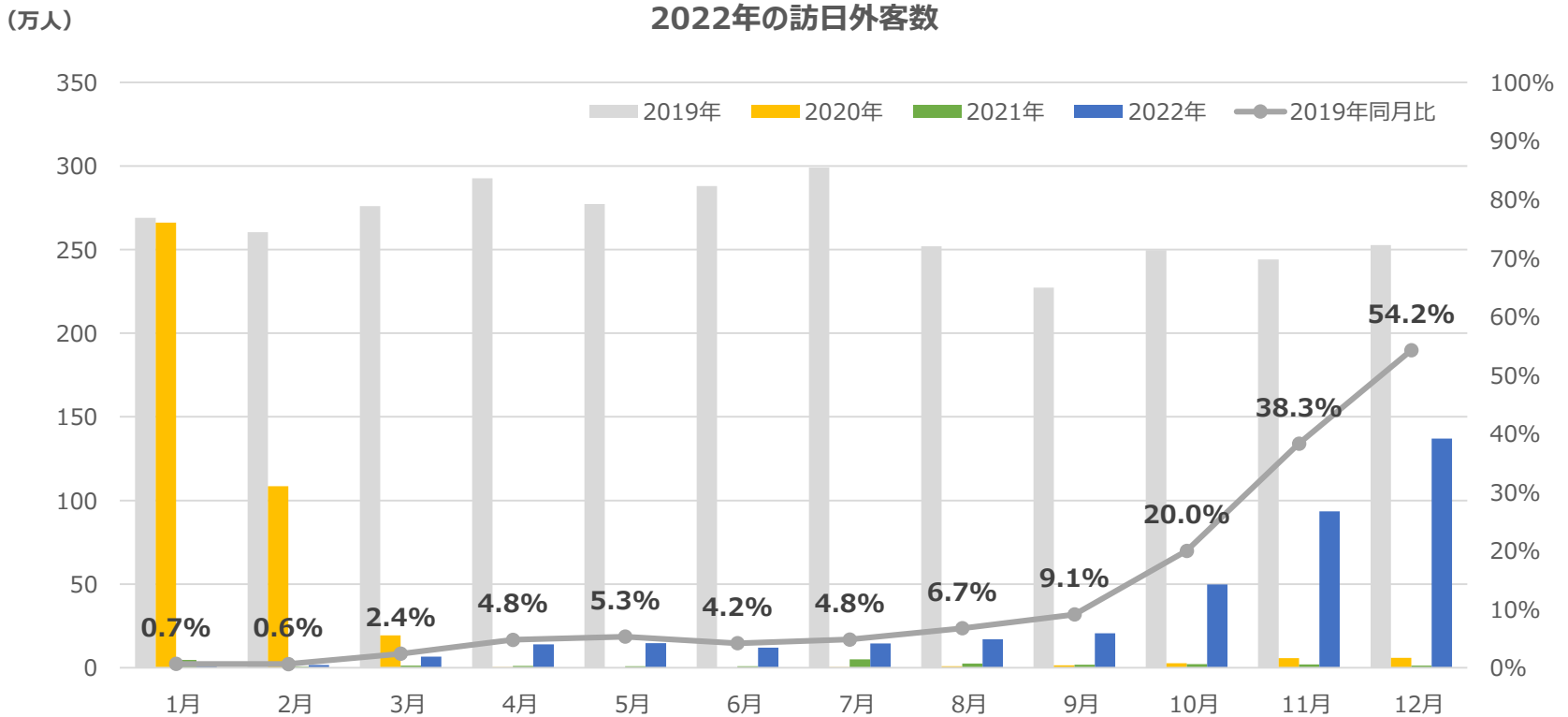
(千人)

2019～2022年の国内延べ旅行者数



1-2. 訪日外国人客数

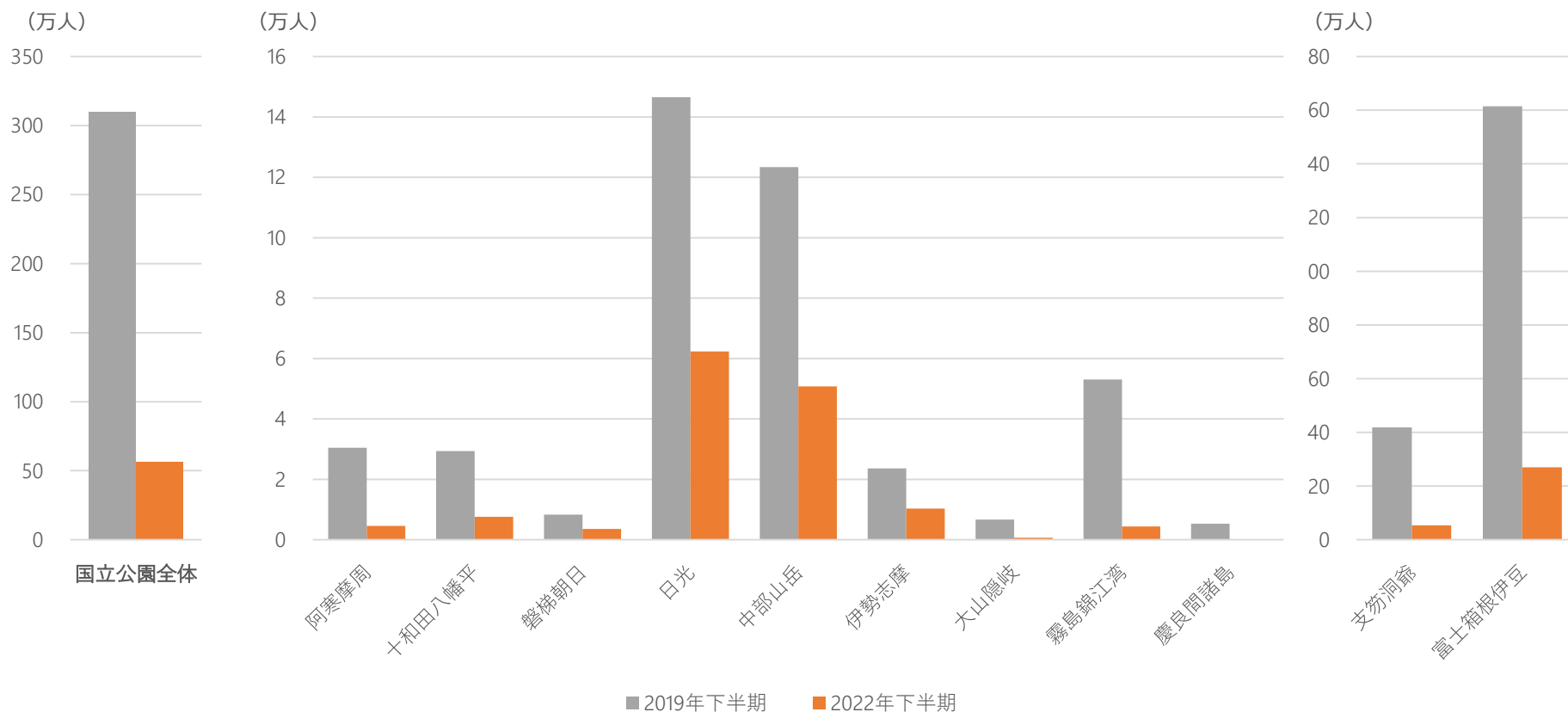
- **2022年の訪日外客数は383万2千人**。新型コロナウイルス感染症の影響前の**2019年の3188万2千人と比較して12.0%に留まっている**。
- 日本政府観光局による訪日外客数公表開始（1964年）以来最低の数値となった2021年に引き続き、低調な序盤から3月以降徐々に外国人が入り始め、入国者数の上限撤廃及び個人旅行客の入国が解禁された10月以降は急速に回復し、11月は2019年比で38.3%、**12月は54.2%までに回復した**。



1-3. 国立公園における訪日外国人利用者数

- 2022年9月以降、段階的に外国人旅行者の入国制限が緩和されたため、2022年下半期の国立公園における訪日外国人利用者数の推計を行った。
- 2022年下半期における国立公園全体の訪日外国人利用者数は約64万人と、**2019年下半期の2割程度**の水準となった。**日光、中部山岳、伊勢志摩などの一部公園は回復ペースが速く**、2019年下半期の4割程度の水準にとなった。

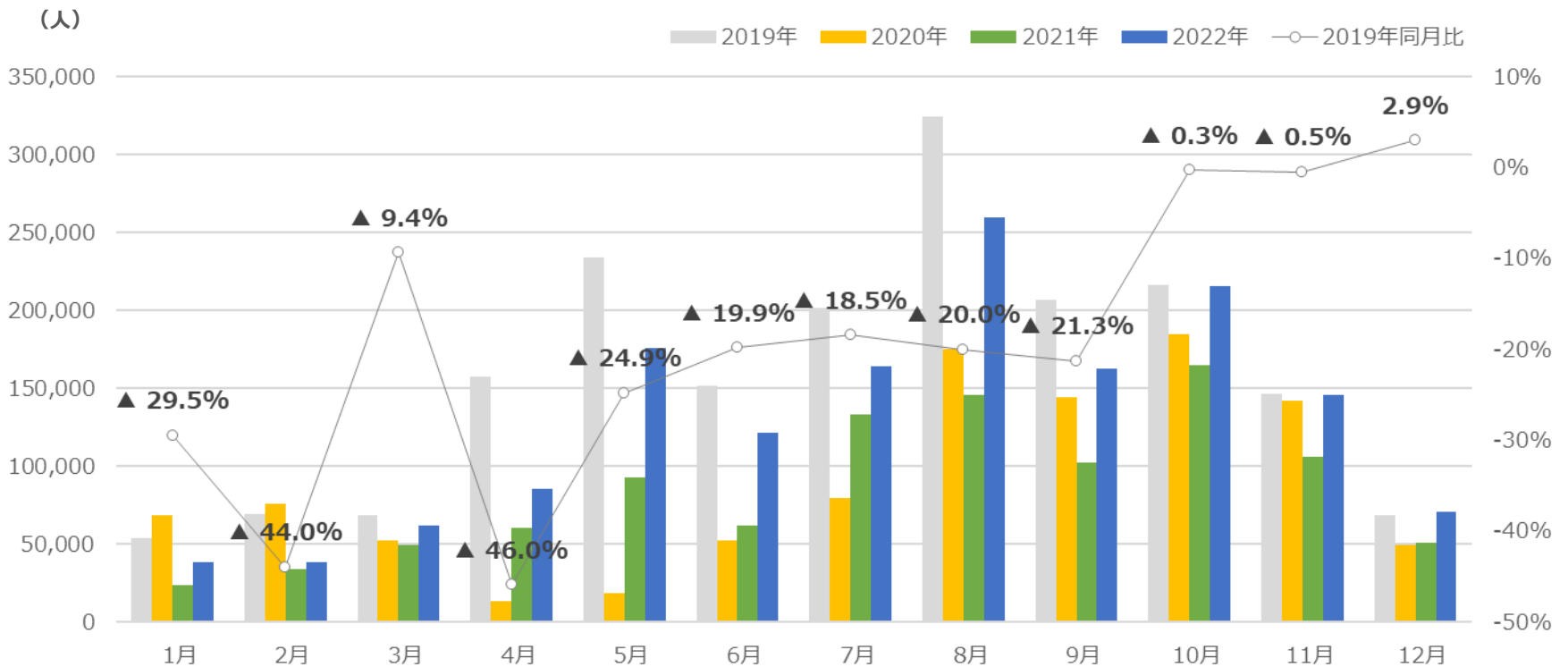
国立公園の訪日外国人利用者数（2022年下半期・2019年下半期）



1-4. 主なビジターセンター利用者数

- 全国の環境省直轄ビジターセンターのうち、利用者数の多い12施設の利用者数は153万6千人。新型コロナウイルス感染症の影響前の2019年の189万4千人から18.9%減少した。
- 一方、昨年2021年からは50.3%増加した他、7月以降の下半期は回復も鮮明で、10月以降は2019年度と同水準の利用者数となっている。

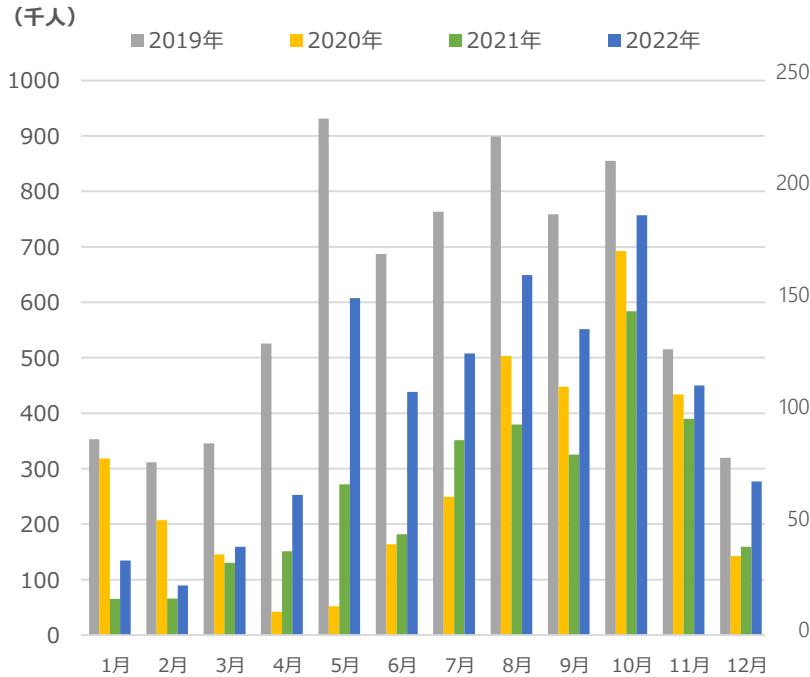
環境省直轄ビジターセンター（うち12施設）の利用者数



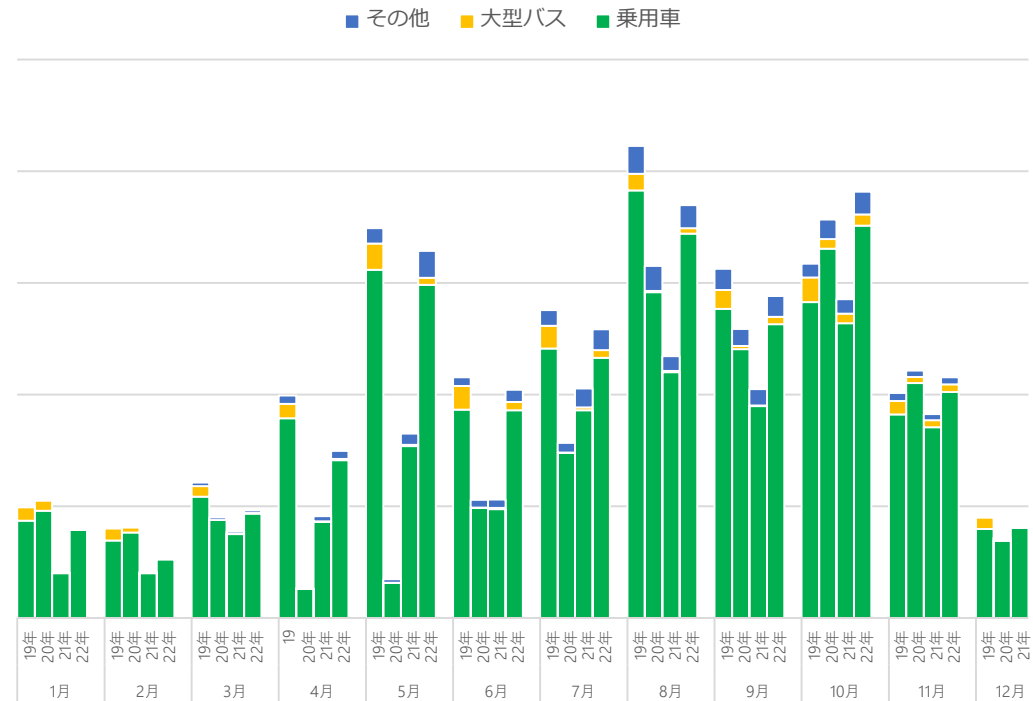
1-5. 自然公園財団駐車場利用状況

- 全国の自然公園財団の管理する駐車場の利用者数は、**487万3千人**。新型コロナウイルス感染症の影響前の**2019年の726万6千人から32.9%減少した**。一方、昨年2021年からは**59.5%増加した**。
- 車種別利用者数には、乗用車がメインで、2019年に大型バス利用者が全体の7.0%いたのに対して、2022年は2.3%に留まっている。

自然公園財団駐車場 利用者数



自然公園財団駐車場 駐車台数

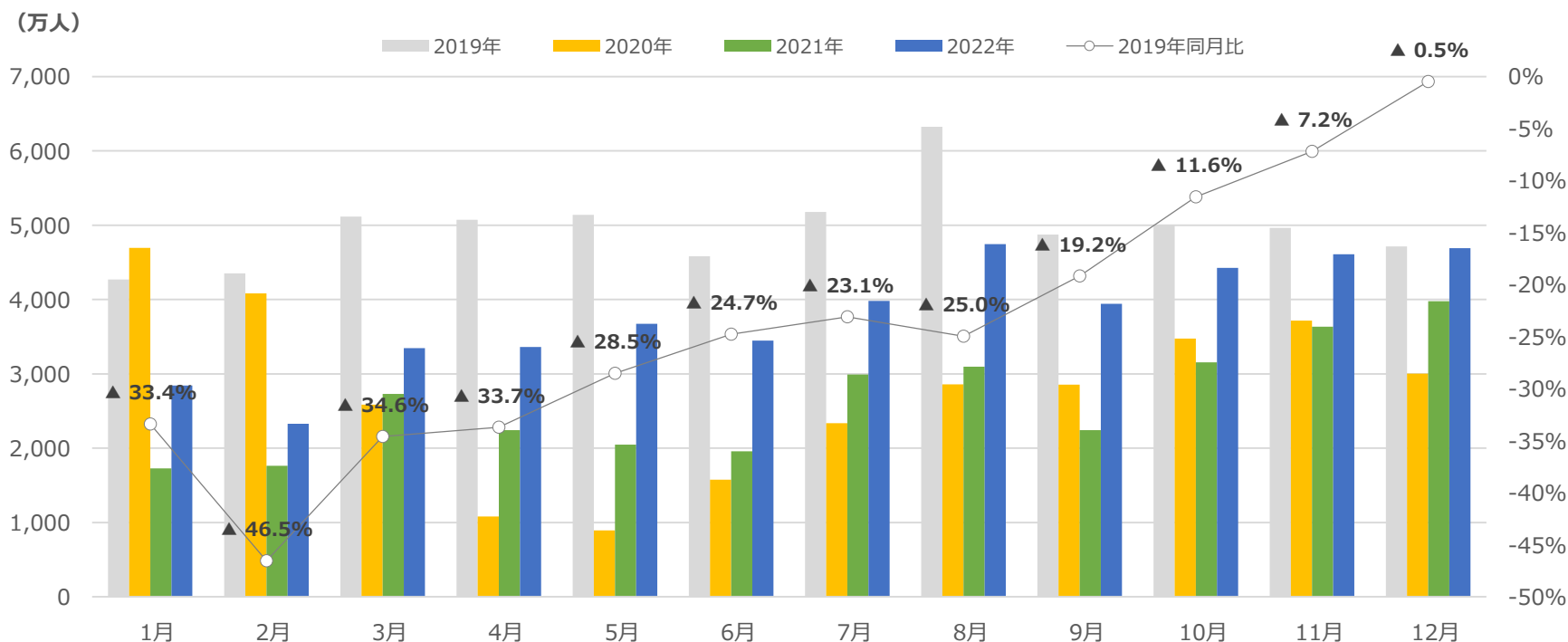


宿泊者数

2-1. 日本全体の宿泊者数

- **2022年の国内延べ宿泊者数（日本人及び外国人）は4億5397万人**。新型コロナウイルス感染症の影響前の2019年の5億9592万人から23.8%減少した。一方で2021年と比較すると55.7%の増加となっており、回復傾向にある。
- 特に全国旅行支援がスタートした**下半期は回復基調が鮮明**となり、11月の延べ宿泊者数は2019年比で92.8%、12月は99.5%となった。

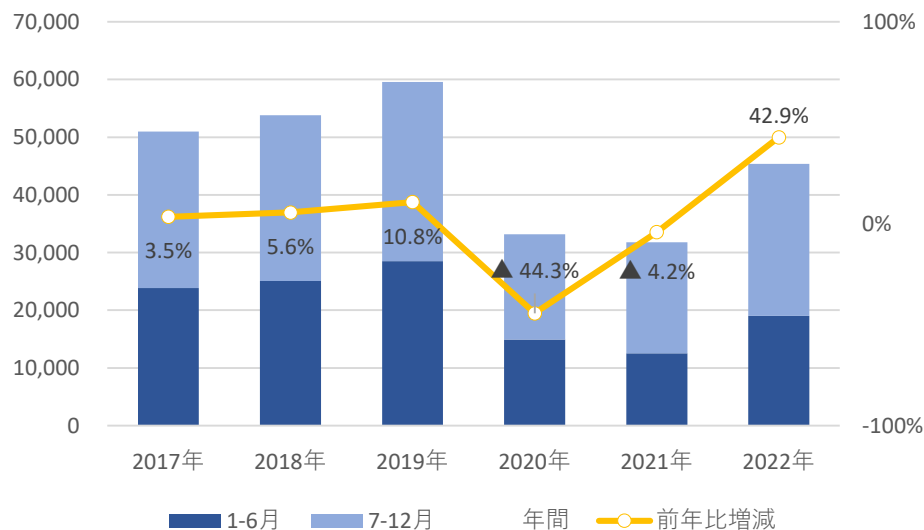
2021年の国内延べ宿泊者数



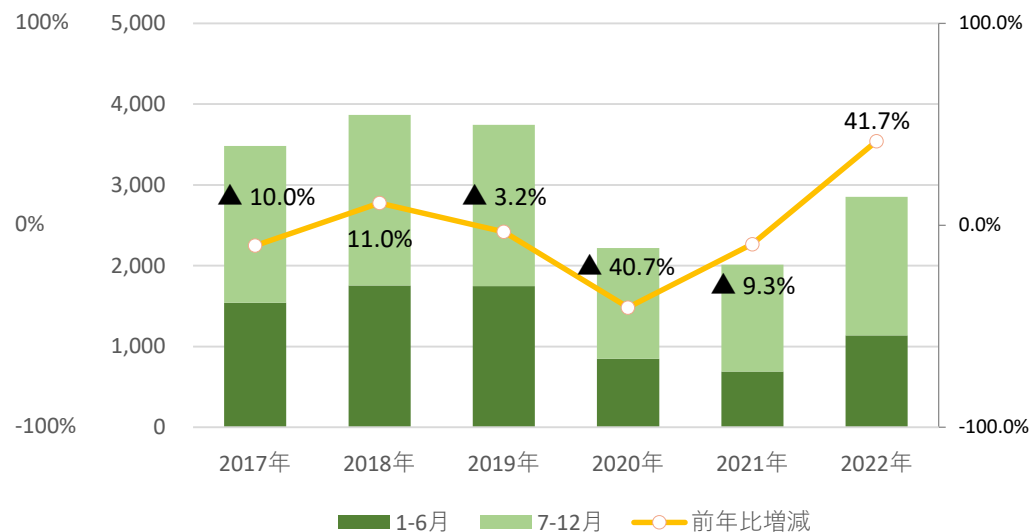
2-2. 国立公園における宿泊者数（全公園）

- **2022年の国立公園内の延べ宿泊者数は2,852万人**であった。新型コロナウイルス感染症の拡大により大きく落ち込んだ2021年から42%の増加となり、感染拡大前の2019年比では76%の水準まで回復した。**特に下半期の回復が大きく、2019年比では86%の水準**となった。
- 国内宿泊者数も同様に、2021年から43%の増加となり、2019年比では8割弱の水準まで回復した。

全国の延べ宿泊者数
(単位：万人)



国立公園区域内の延べ宿泊者数
(単位：万人)



※国立公園内の宿泊者数は、観光庁「宿泊旅行統計調査」の調査票情報を利用して推計。

※2017年～2021年は、「宿泊旅行統計調査」結果の確報値、2022年は同調査結果の速報値を使用。

2-3. 国立公園における宿泊者数（公園別）

- 2022年の宿泊者数は、多くの公園で2021年からの回復が見られた。特に日光、富士箱根伊豆、伊勢志摩など知名度の高い観光スポットを擁する公園では回復が速く、2019年比で8割強～9割弱の水準となっている。
- 一方で阿寒摩周、大雪山、慶良間諸島などでは回復が鈍く、2019年比で5割以下の水準となっている。

※ 南アルプス、屋久島の増加については、公園区域内宿泊施設数の関係で誤差が大きい可能性がある。

2019年、2021年および2022年における各国立公園区域内の延べ宿泊者数

公園名	2019年 (確報値)	2021年 (確報値)	2022年 (速報値)	2021年比 増減	2019年比 増減	公園名	2019年 (確報値)	2021年 (確報値)	2022年 (速報値)	2021年比 増減	2019年比 増減
1 利尻礼文サロベツ*	-	-	-	-	-	18 白山	26,032	15,692	9,391	▲ 40.2%	▲ 63.9%
2 知床	12,361	11,502	14,412	25.3%	16.6%	19 南アルプス	21,845	6,458	19,100	195.8%	▲ 12.6%
3 阿寒摩周	828,567	249,555	431,701	73.0%	▲ 47.9%	20 伊勢志摩	2,966,324	1,946,431	2,563,470	31.7%	▲ 13.6%
4 釧路湿原*	966	-	-	-	-	21 吉野熊野	686,928	418,221	463,807	10.9%	▲ 32.5%
5 大雪山	775,526	271,630	199,520	▲ 26.5%	▲ 74.3%	22 山陰海岸	855,922	412,226	590,562	43.3%	▲ 31.0%
6 支笏洞爺	3,631,085	1,256,752	2,103,984	67.4%	▲ 42.1%	23 瀬戸内海	1,618,007	857,856	1,261,929	47.1%	▲ 22.0%
7 十和田八幡平	556,323	422,565	516,169	22.2%	▲ 7.2%	24 大山隠岐	334,875	148,003	277,419	87.4%	▲ 17.2%
8 三陸復興	123,375	119,148	122,973	3.2%	▲ 0.3%	25 足摺宇和海	152,214	73,490	105,013	42.9%	▲ 31.0%
9 磐梯朝日	861,876	547,122	661,957	21.0%	▲ 23.2%	26 西海	65,268	32,737	21,483	▲ 34.4%	▲ 67.1%
10 日光	4,682,377	2,898,152	3,904,635	34.7%	▲ 16.6%	27 雲仙天草	460,911	196,905	327,849	66.5%	▲ 28.9%
11 尾瀬*	-	-	-	-	-	28 阿蘇くじゅう	1,248,665	653,674	931,918	42.6%	▲ 25.4%
12 上信越高原	3,005,606	1,422,743	1,977,044	39.0%	▲ 34.2%	29 霧島錦江湾	691,811	277,255	412,229	48.7%	▲ 40.4%
13 妙高戸隠連山	375,971	250,060	303,492	21.4%	▲ 19.3%	30 屋久島	1,034	16,700	4,686	▲ 71.9%	353.2%
14 秩父多摩甲斐	146,480	139,907	164,279	17.4%	12.2%	31 奄美群島	14,616	9,703	13,912	43.4%	▲ 4.8%
15 小笠原*	-	-	-	-	-	32 やんばる	72,611	127,123	150,584	18.5%	107.4%
16 富士箱根伊豆	11,370,294	6,401,266	9,731,704	52.0%	▲ 14.4%	33 慶良間諸島	315,730	107,451	106,352	▲ 1.0%	▲ 66.3%
17 中部山岳	1,033,421	506,381	704,704	39.2%	▲ 31.8%	34 西表石垣	505,801	332,555	421,425	26.7%	▲ 16.7%

※この推計は、「宿泊旅行統計調査」（観光庁）のデータを利用し推計したもの。推計にあたっては宿泊旅行統計で用いられている母集団名簿の内、国立公園区域内に含まれている宿泊施設を抽出して実施した。

このため、特に国立公園区域内に存在する宿泊施設が少ない国立公園については、地域の宿泊実態との誤差が大きい可能性がある（白山国立公園、南アルプス国立公園、屋久島国立公園、など）。

*「尾瀬国立公園」「小笠原国立公園」は公園区域内に対象となる宿泊施設が無いため、「利尻礼文サロベツ国立公園」「釧路湿原国立公園」は当該年の回収数が0のため、推計不可として扱った。